

# The Indian Connection



在東京 インド大使館

## 大使からのメッセージ

インド大使館の新しいニュースレター「インディアン・コネクション」日本語版第一号を出版することができ、嬉しく思います。このニュースレターを通じ、私たちは、日本の友人とインドに好意を持っていらっしゃる日本の方々に、インド大使館の活動、インド、印日関係に関するエキサイティングなニュースをお届けしたいと思っています。

「インディアン・コネクション」は二週間に一回刊行される予定です。インド大使館のウェブサイトでもご覧になれます。

駐日インド大使

サンジェイ・クマール・ヴァルマ閣下

## 躍進するインド

### 世界第3位に上昇しつつあるインドの消費者市場

GDP年間成長率7.5%を維持するインドは、現在世界第6位の経済大国。世界経済フォーラム(WEF)の報告によると、2030年までに国内の個人消費活動が6兆ドル規模の商機を生み出すと期待されている。

もし、この予想が実現すれば、インドの消費市場はアメリカ、中国に次ぐ世界第3位の市場になると見られている。

### インド経済 急速成長を継続中

インドは2018年中の世界経済の浮き沈みや原油価格の高騰、世界的な貿易戦争にも耐え、世界最速の成長経済という名を維持している。インド計画委員会副委員長は、今年度においてもインドは7.8%の成長を遂げるであろう、と述べ、また、すでに活発化している投資活動も、今後より力強さを増し、より多くの民間投資が行われるであろう、と述べている。

“**BE THE CHANGE YOU WISH TO SEE IN THE WORLD**”

-マハトマ・ガンジー-

インド国内の空港では環境への配慮から、ストローやプラスチック皿などの使い捨てプラスチック製品の使用が禁じられている。インドの国内空港から使い捨てプラスチック製品を一掃する最初の取り組みである。

### インド初の太陽光無人運転バス インド科学会議に登場

パンジャブ州の大学生達が権威あるインド科学会議においてインド初の太陽光無人運転バスを発表した。

このバスは大学教授達の指導の下で研究を重ねた300名以上の工学部生達の努力の結晶である。

価格も60万ルピーと経済的な上、維持費も低く抑えられている。

### デジタルスキルとデジタル人材

インドは「デジタルスキル」の中心地として注目を集め始めています。労働者の訓練に年間16億ドルを費やしており、様々なITやBPMの分野で最大100%の#FDI(外国直接投資)を自動承認ルートで許可しています

**INVEST INDIA**  
FOR BUSINESS OPPORTUNITIES

**インド デジタル革命をリード**

- 16,000 IT・BPM企業数
- 3-4倍 米国と比べた場合の費用対効果が高さ
- 56% 世界のアウトソーシング市場でのシェア

## 目次

躍進するインド	1
インドと日本の物語	2
在日インド大使館	3
インド国内ニュース	5
インドとビジネス界	6
インド観光情報	11
インドスポーツ界の快挙	14
インドグルメ	15
連絡先/SNS/出版物	16

インドと日本の  
物語

『私達はインドが独立から75年目を祝う2022年までに宇宙空間でインド国旗を掲揚する、という決意を掲げたが、2022年、またはそれよりも前に我が国の若者がこの目標を達成するであろうと確信している』

- 2018年8月15日に『ガガンヤーン計画』を発表したナレンドラ・モディ首相の言葉

## インドと日本 宇宙対話を新たに開始

2018年10月のモディ首相来日時に、両国首脳は印日宇宙対話を立ち上げた。印日宇宙対話は両国の包括的宇宙協力を強化することになるだろう。インド宇宙研究機関 (ISRO) と日本の国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、及びインド外務省、日本外務省、内閣府が出席する初会合は2019年3月に開催予定である。

対話では宇宙探索や宇宙

ゴミ追跡といった宇宙関連の課題に対する協力や連携について協議を予定している。

また、ISROとJAXAによる共同月極探査ミッションに向けた技術協力も開始されることになっている。

ISRO -  
インドの主要宇宙機関

1969年設立。これまでに100回以上成功させ、知名度を上げている。2013年には初めての打ち上げで火星の軌道に探査機を送り込むことに成功。2008年に行われた月面探査計画チャンドラヤーンでは、月面に水があった痕跡を発見した。

## ガンジー平和賞2018が笹川洋平氏に贈られる

インド政府は、世界保健機関 (WHO) ハンセン病制圧大使を務める笹川洋平氏に2018年ガンジー平和賞を授与すると発表した。

氏のハンセン病撲滅活動を評価し、授与を決定したものである。

ガンジー平和賞は、非暴力的またはガンジー哲学に基づいた手段をもって社会的、経済的、政治的変革に貢献した個人や団体に贈られる賞である。

インド首相と野党党首を含む5名の審査員で構成される審査委員会が受賞者を決定する。

『笹川洋平氏のような人物の存在は、何百万もの人々に意欲を与える。彼は実に多数の慈善活動の最前線に立っている。』

彼の温かい人柄は、ハンセン病撲滅活動への取り組み方にも表れている。』

- ナレンドラ・モディ首相

## 河野外務大臣

## 印日外務大臣戦略対話のためニューデリーを訪問

2019年1月に訪印した河野日本国外務大臣はモディ首相に表敬訪問し、印日特別戦略的グローバル・パートナーシップの深化に向けた強い意志を改めて表明した。

河野外務大臣の訪印中、第10回印日外務大臣戦略対話がニューデリーで開催された。対話の中で両

大臣は、特にアクト・イースト・フォーラムを通じた二国間協力を実現化していく、という共通認識で一致した。

山下日本国法務大臣とインドのプラサド法務大臣は、法務・規制分野における二国関係構築の機運を維持する方法について協議を行った。

## 山下法務大臣

## プラサド法務大臣と会談



## 新駐日インド大使 信任状捧呈式に臨む

新任駐日インド大使のサンジャイ・クマール・ヴァルマ閣下は1月上旬に来日した。同月17日に皇居宮殿で厳かに行われた信任状捧呈式で、日本の明仁天皇陛下に信任状を捧呈した。

天皇陛下は駐日インド全権特命大使に任命されたヴェルマ大使を祝福した。

## インドヘルスケア産業における商機セミナー

インドのヘルスケア産業における商機を紹介するセミナーが1月18日に在日インド大使館で開催され、サンジャイ・K・ヴァルマ駐日インド大使閣下が開会の辞を述べた。



このセミナーは、インドのヘルスケア産業の最新情報と日本企業に対する商機を紹介し、同部門に参入しているインド企業・日本企業の経験を共有するため開催された。セミナーには55社以上から100

名以上が参加した。このセミナーは、日本政府関連機関やJETROから協力を得て開催された。

インドと日本は2018年10月にヘルスケア関連機関の交流促進やヘルス技術の革新、メイク・イン・インディア政策下での高性能医療機器製造連携、ビジネス協業や官民フォーラムの設立を促進する協力覚書を取り交わしている。

## インド大使館主催： ヴィシュワ・ヒンディー・ディワス及び ブラヴァシー・パーラティヤ・ディワス祝賀式典

在日インド大使館は、ヴィシュワ・ヒンディー・ディワス(世界ヒンディー語の日)及びブラヴァシー・パーラティヤ・ディワス(在外インド邦人の貢献を評価する日)祝賀式典を開催した。

ヴァルマ大使による開会の挨拶の後、2018年世界ヒンディー・サマン賞を受賞した藤井毅教授と町田和彦教

授による基調講演が行われた。

祝賀式典では、マハトマ・ガンジー翁生誕150周年を記念して、『ヴァイシュナヴ・ジャナ・トー・テネ・カヒエ・ジ』を制作した日本人アーティストにインド外務省のスシュマ・スワラジ大臣から記念品が贈られた。



ヴァルマ大使は大使館交流プログラムに参加した熊本県の高校生らと交流した。

## 在日インド大使館



『インドのヘルスケア市場は医療機器取引で見ると世界第4位の市場であり、その市場規模は2025年までに500億ドルに拡大すると期待されている。ヘルスケア市場全体の市場規模は約1100億ドルである。』

-サンジャイ・クマール・ヴァルマ大使





在日インド大使館



ヴァルマ大使 インド沿岸警備隊代表団と交流

インド沿岸警備隊のラジェンドラ・シン長官率いる代表団がサンジャイ・クマール・ヴァルマ大使を表敬訪

問した。代表団は1月22日に行われた印日海上保安機関長会合出席のため来日。



インド沿岸警備隊と日本の海上保安庁は定期的に連携訓練を実施している。



INVEST INDIA  
#G20

太陽光発電の  
インドのポテンシャル

26,549 MW 電気容量	46 ソーラーパーク	21 州
-------------------	---------------	---------

ダボス会議のインド 2019

ヴァルマ大使 日印協会と森喜朗元首相主催の歓迎昼食会に出席

新駐日インド大使サンジャイ・クマール・ヴァルマ閣下を歓迎する昼食会が、元日本国首相で日印協会会長の森喜朗閣下によって1月18日に催された。

面に到達するようお願い、と述べられた。

森元首相はヴェルマ大使の任期中の活躍を祈念し、印日関係が新たな局



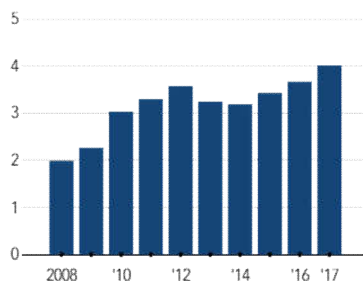
着任した最初の1か月でヴァルマ大使は外務省の秋葉剛男事務次官や岩間公典儀典統括官、各国駐日大使を表敬訪問した。



## インド国内ニュース



インドは2018年にドイツを抜き、世界第4位の自動車市場に浮上した。2020年にも日本を抜いて世界第3位の市場になると見られている。

India's zooming auto sales  
(in millions of units)

Source: Society of Indian Automobile Manufacturers

新車販売台数は前年度比14%で増加し、2018年には322,074台に到達。



#startupindia



## グローバル・サプライ・チェーンを見据えた新産業政策

インド政府は新しい産業政策を発表した。これについてスレッシュ・プラブー商工大臣は、インドをグローバル・サプライ・チェーンと結び世界とインドの双方に利益をもたらす政策であると述べた。

プラブー大臣は、インドは国内経済の規模を2035年までに10兆ドルに拡大しようとする取り組みを行っているが、単独で成長できる国はないとの認識から、巨大な成長機会を世界の国々と共有するためにはこのような政策が重要であると述べた。

## アユージュマン・バラート政策- 100日間で患者70万人が受診

1月18日、モディ首相はアユージュマン・バラート政策の下、100日間で70万人もの患者が治療を受けたと述べた。

さらにこの4年間で、国内の医学学士コース(MBBS)で18,000人以上、大学院コースで13,000人以上と医療系教育機関の定員総数が大幅増加したことも、国内医療機関や医学教育機関を後押ししている。

アユージュマン・バラート政策は2018年9月に運用が始まった世界最大の公的健康保険制度。

インド  
Train18で世界の車両市場への参入を検討

Train18を開発したインド鉄道は、2000億ドルの規模を持つ世界の客車・貨車市場への参入を計画している。

特に最高時速150~200km程度の準高速鉄道部門に大きな商

機を見出している。インド政府は、高速鉄道導入に向けた予算の確保が難しい国に対し、実現可能な選択肢として準高速鉄道を促進していきたい考え。インドが開発したTrain18は最高時速180キロで走行可能な車両で、製造コストも他国製造の車両に比べて25%抑えられる。

## クリエイティブ製品輸出国として台頭するインド

「クリエイティブ経済見通し」第二版によれば、インドのクリエイティブ製品輸出は、2005年の74億ドルから2014年の202億ドルへほぼ三倍増となった。クリエイティブ製品の中で最大の割合を占めるのはデザイン製品で、中でもジュエリーが主力アイテムである。世界水準の経験を持ったゲーム開発者が低コストで調達可能であることから、インドは、さまざまなゲームの開発、ポーティング、ダビングなどの世界的拠点となっている。

## スズキ・グジャラート工場、2020年までに75万台を製造予定

スズキ自動車のグジャラート州における初の組立工場は、2017年9月に操業を開始した。鈴木俊宏社長は「ヴァイブラント・グジャラート・サミット」において、予定されている三つの工場がすべて稼動すれば、スズキ自動車のグジャラート州工場の年間生産台数は75万台に増加すると述べた。

スズキは電気自動車を2020年にインドに導入することを決定している。また、鈴木社長は、同社がトヨタ自動車の技

術支援を得て、最先端のハイブリッド車を導入すると述べた。

## ラダックに世界最大級太陽光発電施設が建設予定

ラダックに、単一場所としては世界最大の太陽光発電施設が建設される。もう一つの大規模太陽光発電計画とあわせ、年間1万2750トンの温暖化排出が削減され、氷河後退への貢献が期待される。

TOP 5 SOLAR PV PROJECTS (Single Location)	Present Capacity (MW)	Projected Capacity (MW)	Location
Tengger Desert Solar Park	1,547		Ningxia, China
Bhadla Solar Park	1,365	2,255	Rajasthan, India
Datong Solar Power Top Runner Base	1,000	3,000	China
Kurnool	1,000	2,000	Andhra Pradesh, India
Longyanxia Dam Solar Park	850		Eastern Zhejiang, China
Ladakh project		5,000	Ladakh, India

Source: SolarInsure, as of June 2017. The Ladakh project will still be the world's largest even after others complete their planned capacities



Bengaluru



## インドのヘルスケア産業

急速に成長するヘルスケア産業は、分野やサービスの拡大、官民による支出の増額により現在インドで最大の産業のひとつとなっている。ヘルスケア産業市場は2020年までには2800億ドルに達すると見込まれている。

医療に関する十分な訓練を受けた人材が豊富であることがインドの強みとなっている。ヘルスケア産業は、2030年までにインドで4000万人分の雇用を生み出すと期待されている。政府の保健推進計画「アユルヴェーダ・バラート」により10万人の雇用が創出されると予測されている。

インドは、研究開発とメディカル・ツーリズムの分野でも巨大な機会を提供している。インドはアジアの近隣諸国や欧米諸国よりも

勝れた価格競争力を持っている。インドにおける手術費は欧米諸国の約10分の1である。

病院業は年間17パーセントのペースで成長し、2022年までに1334億4000万ドルに達すると予測されている。現在、先端診断施設への大規模な設備投資が行われている。インドは、高度な診断サービスの提供先として台頭している。

インド政府は、インドをヘルスケア産業の世界的拠点として開発することを目指している。国内で予防接種率を高めるため、インド政府は「予防接種強化計画（IMI）」を立ち上げた。政府はまた、国家保健推進計画の財政支援を通じ、医療インフラの拡充を奨励している。政府が立ち上げた以下の計画も、インドのヘル

スケア産業に急速な変化をもたらしている。

1. 世界最大規模の政府援助による保健推進計画「アユルヴェーダ・バラート」は2018年9月に立ち上げられた。

2. 「国会医療委員会法 2017」は、医療教育改革の推進を目指している。

3. 一世帯あたり年間50万ルピー（7,124ドル）までの医療費を1億世帯以上に提供する国民健康保険推進計画「PMJAY」は、2018年9月に立ち上げられた。

### HEALTHCARE CLUSTERS



「2017年、メディカル・ツーリズムを目的とする外国人観光客は、ほぼ16パーセント増加した」

アルフォンズ観光大臣

### メディカルツーリズムを目的とした外国人観光客数が16パーセント増：2017年

2016年、2017年に医療ビザでインドに出国した外国人観光客数は、15.9パーセント増加した。

メディカルツーリズムはインドにとって大きな可能性を持っている。インドの伝統的なアーユルヴェーダ、ヨガ、パンチャカルマ、若返り療法などは世界でも最も長い歴史を持つ医療体系・健康療法体系である。インドでは、医療サービスやヘルスケアが手ごろな価格で提供されている。またインドは最先端の医療施設、評判の高いヘルスケアの専門家、高品質の介護施設、伝統的な健康療法などにも優

れている。

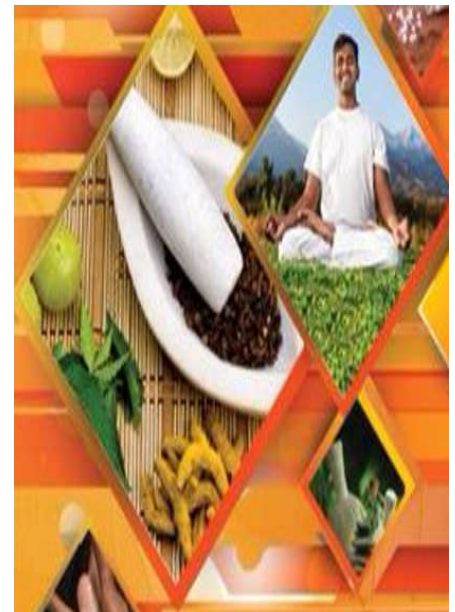
観光省は、メディカル・ツーリズムを推進するための様々な施策を実行している。

1. 国家メディカル・ウェルネス・ツーリズム評議会が設立された。
2. ヘルスケアに関するポータル [www.indiahealthcaretourism.com](http://www.indiahealthcaretourism.com) が立ち上げられた。インドの最高レベルの医療施設で治療を受けたいメディカル・ツーリズム観光客のために包括的な情報を提供する多言語プラットフォーム。

フォーム。

3. e-ツーリスト・ビザの適用範囲が拡大し、医療目的の渡航も含まれるようになった。メディカル・ツーリズム観光客の渡航を容易にするため、治療を受ける本人対象のメディカル・ビザと付添人用のアテンダント・ビザが導入された。eメディカル・ビザで認められる滞在期間は、通常の観光ビザよりも長い六ヶ月間。

アーユルヴェーダとヨガに関する印日協力：昨年のモディ首相の日本訪問の際、AYUSH省と神奈川県はヘルスケアとウェルネスに関する二国間協力推進のための覚書を締結した。アーユルヴェーダやヨガを含むインドの伝統的な医療体系に関する初の協力覚書となる。



### 港湾インフラ開発及び整備

インドの貿易量の大部分は海上貿易が占めており、新しく6箇所の港を整備しました。これにより取扱量は400MTPA増加する見込みです。

**インドの6箇所の  
大規模港**  
により、取扱量は  
400MTPA増加  
します。

ダボス会議のインド 2019

### Kyocera CTC Precision Tools

(KCPT) は、日本の京セラとインドのCTCの合弁会社です。今後3年間で生産量を3倍する計画です。自動車、エンジニアリング、防衛産業向けの高精度金属切削工具を製造しています。

**31億1000万ドル**  
の外国直接投資が  
2014年から2017年に  
医薬品業界へ流入しています

ダボス会議のインド 2019

### インドの医薬品業界への海外直接投資動向

インドの医薬品業界への海外直接投資 (FDI) は、2014年から2017年で31億1100万ドルに達しました。

**KCPTは  
今後3年間で  
3倍の生産量を見込む**

Kyocera CTC Precision Tools (KCPT) は、日本の京セラとインドのCTCの合弁会社です

## 国際協力銀行『海外事業展開に関する調査報告』に

## インドが機会豊富な「約束の地」であることが示されている

国際協力銀行は、2018年度の「わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告」を発表した（対象：1012社有効回答者数：605社有効回答率59.8%）。この海外直接投資に関するアンケート調査において、インドは中期的（3年）な有望事業展開先国・地域の項目で第二位、長期的（10年）な有望事業展開先国・地域の項目で一位となった。

### 「中期的有望国」インド市場の成長性への期待

同報告書は、中期的有望国について、「中国とインドが得票率で他国との差を拡げ、二極化が進む結果となった」「両国とも”市場の成長性”や”市場規模”の側面で全業種からの期待が高い」と総括している。また、インドは前回のランキングでは後退したものの、高額紙幣の廃止などの制度面の混乱が落ち着いたことが功を奏し、得票率が再び伸びて46.2パーセントとなったと報告している。インドで事業を展開していると答えた企業209社のうち、70.9パーセントが、「中期的に事業を強化、拡大する」と回答した。

インドを中期的有望国とした197社のうち、

82.2%にあたる162社がその理由として、「現地マーケットの今後の成長性」を挙げた。有望理由の第二位となっているのが、「現地マーケットの現状規模」である。三位以下は、「安価な労働力」「組み立てメーカーの供給拠点として」「優秀な人材」と続く。

課題に関する質問では、前々回の調査にいたるまでインドの課題の一位であった「インフラが未整備」は前回では二位、今回は三位となった（174社のうち64社が回答）。今回のインドに関する課題の一位は「他社との激しい競争」だった（174社のうち76社が回答）。この結果は、インドにおけるインフラ環境が急速に改善されていることを示している。

インドに関する課題の四位、五位には税制関連の問題が挙げられた。インド大使館は、JETROとInvest Indiaとの共催で、日本企業への理解を深め、投資に関する迅速な決断を可能にするためのセミナーを定期的に開催している。

### 環境規制の強化：事業にプラスの影響

### 環境ビジネスにおける機会

JOI機関誌「海外投融資」に掲載された国際協力銀行の同報告書の分析によると、「環境規制が強化されている国」の項目で一位となったのが中国（73・5%）、ついでEU15（54.1%）、米国（36.3%）と続き、インド（34.9%）は4位に入った。「環境規制が事業に与える影響」の項目では、インドに回答した83社のうち、34.9%が「プラスの影響が見込まれる」と回答している。同分析では、気候変動に関連して成長すると予測される分野として、日本、中国、ASEAN10、米国、EU15、インド・中近東・アフリカと全地域で再生可能エネルギー、EV、省エネルギーなどが挙げられており、気候変動関連以外では、ASEAN諸国とインドで、下水・排水処理、廃棄物処理などインフラ整備の取り組みが増える傾向が将来も続く見込みとされている。

インド大使館は、2019年1月18日に「ヘルスケア・セミナー」を主催し、ヘルスケア産業のエコ・システムが日本企業に提供している機会について紹介した。2019年2月28日にインド大使館で開催される次のセミナーでは、インドの法制度における前向きな展開と、農業・食品加工業における機会がテーマとなる。詳細は、近日中に大使館のウェブサイトにて発表される。

### 食品加工業界

食品加工業界は、政府の積極的な政策や魅力的な金銭的インセンティブにより、14.6%という高いCAGR(年平均成長率)が実現しつつあります。食品加工市場の市場規模は2020年までに5,430億ドルに達すると予測されています。



INVEST INDIA  
World's most awarded IPA

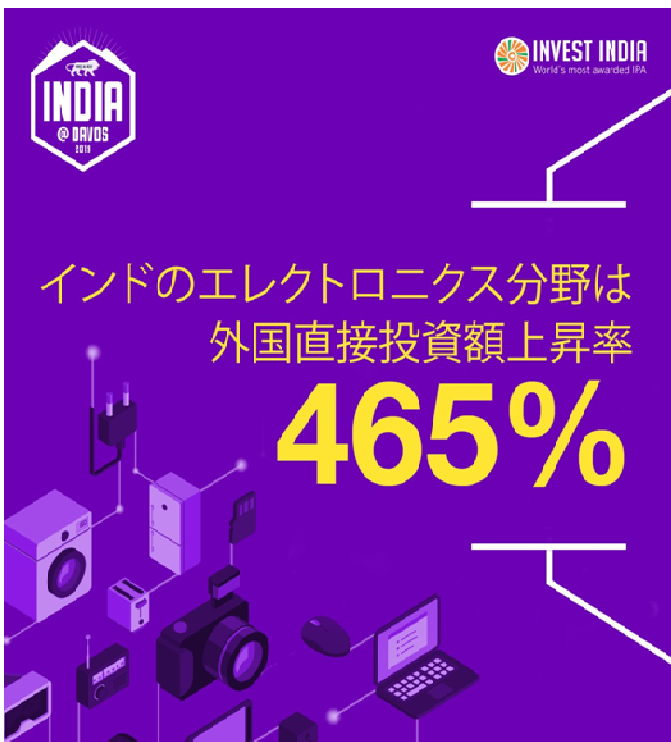
### インドの食品加工業界が二桁成長の繁栄を謳歌

市場規模は2020年までに  
5,430億ドルに達すると  
予測されています



## エレクトロニクス分野

インドのエレクトロニクス分野への外国直接投資（FDI）は過去4年間で465%増加しました。



## インド 南アジア最大のFDI受入国

2014-2018年はインドにおける外国直接投資（FDI）の黄金期であると考えられています。近年、外国からの投資と事業をシンプルにするために、構造的な変更を実施しました。



## インドはオンライン ショッピングのウォームアップ中

インドの電子商取引業界は2020年までに1000億ドルを突破する見込みです



## インドの電子商取引市場

インドの電子商取引業界は2020年までに1000億ドルを突破し、オンラインで購入する人の数は2025年までに現在の9000万人から3億5000万人に増加すると予測されています。



## インドはFDIの 巨額の資金の流入 を目の当たりに

世界銀行のビジネスレポートによれば、インドは南アジアでトップの座を獲得しました。



## ヴァイブラント・グジャラート：28,000件以上の商談が成立

第9回ヴァイブラント・グジャラート・サミットが1月18日から20日にかけて開催された。サミットでは28000件以上の商談が取りまとめられたとみられ、その内インドの中小零細企業(MSME)関連の案件は21000件ほどに上った。これらの取引はインド国内で210万以上の雇用を創出すると期待されている。

また、農業食料部門では408件の基本同意書が取り交わされ、電力・ガス部門では548件、都市開発部門では1,516件、鉱物系製品部門では977件、工学部門や自動車部門、その他部門では197件が取り交わされた。サミットにはインド国内・海外合わせて42,000人が訪れた。カナダやフランス、日本、ポーランド、韓国、オランダ、アラブ首長国連邦、南

### 磯崎経済産業副大臣 ヴァイブラント・グジャラートに参加

アフリカ、スウェーデン、ウズベキスタン等を含む15か国がそれぞれパビリオンを設置し、インド向け輸出を促進した。

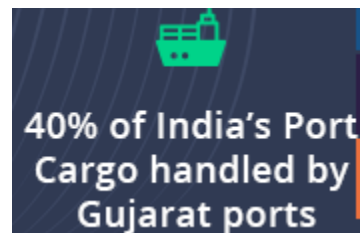
日本政府経済産業省の磯崎仁彦副大臣もヴァイブラント・グジャラート2019と

ジャパン・セミナーに参加した。副大臣は日本とグジャラート州の協力やアジアやアフリカにおける印日経済協力、そして印日デジタル・パートナーシップについて講演を行った。磯崎副大臣の講演は聴衆から高い関心を集めた。

磯崎副大臣は日本政府のパビリオンで40社以上の日系企業の代表者、約130名と共にモディ首相を出迎えた。



### Gujarat



### マルチ・スズキ MAIL(Mobility & Automobile Innovation Lab)を立ち上げる

マルチ・スズキ・インディアは自動車モビリティ産業で革新を促進するイニシアチブを開始した。同社は、MAIL (Mobility & Automobile Innovation Lab)を立ち上げ、スタートアップ企業が開発した革新的かつ先進的なソリューションの特定に乗り出す。このイニシアチブは、成長を始めたインドの優秀な起業家にとって自身の能力を全国に紹介するプラットフォームになる。

MAILは、スタートアップ企業に対し彼らが開発した技術を発表する機会や、「つながる車」や共有モビリティ、自動運転車、電気自動車や関連インフラといった分野における

次世代技術の構築を促すプラットフォームを提供する。特に優秀な技術を持つスタートアップ企業には、マルチ・スズキが行う概念実証(Pilot)に参加する機会も与えられる。

このイニシアチブを始めるにあたり、マルチ・スズキ社は印日シードアクセラレーターでプロプライエタリ・アクセラレーター・プログラムや新事業共創プログラムも行うGHV Accelerator社とパートナーシップを構築した。

### ヤマハ・モーター・インディア社 10億ドル規模の 対印追加投資を計画

ヤマハモーターインディア株式会社(IYM)は今後3年の間に、インフラ開発、技術開発、新モデル開発そしてマーケティングに10億ルピーを投資する計画である。投資額の大半は厳格なBS-VI排出基準に対応できる新技術の開発に充当される予定だ。また、スラジプールやチェンナイ工場での研究開発体制強化に取り組んでいる。

PWCが世界のCEOを対象に行った調査によると、インドは世界で4番目に魅力的な投資先に選出された(2019年1月21日)

『インドは事業運営コストの抑制に成功した。GSTの導入や税制の簡略化といった取り組みは取引コストを減額し、手続きを効率化した。また、デジタル化や専門インターフェイスの活用を通じ、ビジネスプロセスの迅速化にも成功した』

ヴァイブラント・グジャラートでのナレンドラ・モディ首相の言葉



これまで、グジャラート州に多額の投資を行ってきたリライアンス社は、今後10年で同州に対する投資額と雇用者数を倍増すると発表。アダニ・グループは世界最大規模のソーラー・ハイブリッド・パークの建設計画を含む5500億ルピーの投資計画を発表。



## 「神様の国」ー南インド・ケララ州



ターを体験できる。

コチ（コーチン）の、伝統的な漁に用いられるチャイニーズ・フィッシング・ネット（四手網）が海に並ぶ景色は趣が

ケララ州 (Kerala) は、穏やかな海岸、backwaterと呼ばれるエメラルド色の静かな川、緑豊かな避暑地、エキゾチックな野生動物などに恵まれた、インド (India) で最も人気のある観光地である。

この熱帯の楽園では、波の少ない川でのボート漕ぎや、ハウスボートでのクルーズや宿泊、西ガーツ山脈でのトレッキング、避暑地での滞在、手付かずの自然、アーユルヴェーダなどでの若返り療法、有名なスネークボート・レース等、数え切れないほどの娯楽が楽しめる。クマラコム、アレピー、アラブザではケララの美しいバックウォー

ある。ケララ産スパイスは世界中の市場に輸出されている。カレー用のスパイスを買いたい人にはケララはお勧めの場所である。コチではまた、南アジア最大の美術展「ムジリス・ビエンナーレ (Muziris Biennale)」も開催されている。

避暑地ムンナールも、ケララで最も人気のある観光地の



つである。ムンナールの茶園への訪問は美しい思い出になるだろう。森や草地にはエキゾチックな植物が豊富である。12年しか咲かないニラクリンジは、開花すると、山の斜面を青色に染める。州都にほど近いコヤラムも、観光地のひとつ。ティルヴァナンタプラムは世界的にも有名なビーチリゾート。

伝統的なアーユルヴェーダ (Ayurveda) の本拠地であるケララでは、アーユルヴェーダはライフスタイルと考えられており、観光客のために様々な若返り療法などが提供されている。民族舞踊カタカリ (Kathakali)、モヒニヤッ

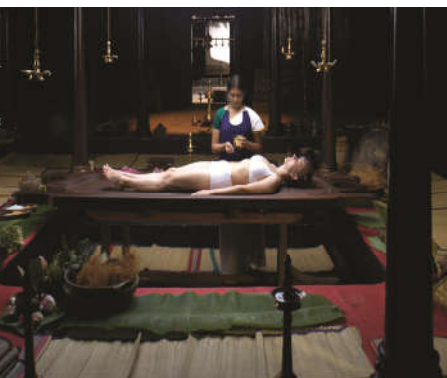
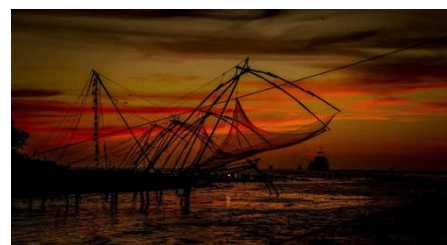
タム (Mohiniyattam) などの舞台芸術やカラリパヤットウ (Kalaripayattu) などの武術も、年間を通じて観光の目玉となっている。

Incredible India



クマラコムノバックウォーター(上)

コチのチャイニーズ・フィッシング・ネット



ケララ州にある国際空港：コーチン、ティルヴァナンタプラム、カリカット

日本国民は到着時発行ビザ(Visa on Arrival)を利用できます。詳しくは、インド大使館ウェブサイトをご覧ください (Embassy of India)

## TOURIST HELPLINE



LAUNCHING OF  
24x7 TOLL-FREE TOURIST  
INFOLINE IN 12 LANGUAGES

By Dr. Mahesh Sharma

Minister of State for Tourism & Culture (Independent Charge)  
and Minister of State for Civil Aviation  
on 8<sup>th</sup> February, 2016

Shri Narendra Modi  
Prime Minister of India

1800-11-1363

Tourists travelling or planning to travel to India can seek help and information for a hassle-free experience.

—: LANGUAGES SUPPORTED :—

Available (all days)  
24x7

English  
Hindi ( ३०३ )  
Arabic ( العربية )

French (Français)  
German (Deutsche)  
Italian (Italiano)

Spanish (Español)  
Japanese (日本語)  
Korean (한국어)

Chinese (中文)  
Portuguese (Português)  
Russian (Русский)

Short code  
1363



クンブ・メーラ2019(Kumbh Mela 2019) : インド・プラヤグラジにて開催中



う意味で、ヒンズー教の神話に由来している。何百万人もの巡礼者が、ガンジス川、ヤムナ川、サラスヴァティ川の合流点で沐浴するためにやってくる。ヒンズー教徒は、聖なる川の合流点で沐浴すると、これまでの罪が洗い流され、輪廻からの解(moksha)が得られると信じている。この祭りに備え、39平方メートルの敷地に4200張りものテントが林立する世界最大級のテント場が設営された。クンブ・メーラを見にやってくる多数の観光客のために、史跡をめぐるウォーキング・ツアーや音楽・踊りなどのプログラムが用意されている。

クンブ・メーラ2019 (Kumbh Mela 2019) が、2019年1月15日、プラヤグラジにて始まった。3月4日まで続くこの祭りには、約1億2000万人もの巡礼者たちが訪れると予測されている。信仰を主題とした大衆の集会としては、世界最大級の祭りである。

クンブ・メーラとは何か？  
クンブ・メーラとは「聖なる水差しの祭り」とい

流点で沐浴するためにやってくる。ヒンズー教徒は、聖なる川の合流点で沐浴すると、これまでの罪が洗い流され、輪廻からの解(moksha)が得



クンブ・メーラは2017年、UNESCOの「人類の無形文化遺産」リストに登録された



第15回プラヴァシ・バラティヤ・ディバス(PBD)がヴァラナシで開催された

第15回プラヴァシ・バラティヤ・ディバス(PBD)が、2019年1月21-23日、ウッタープラデッシュ州ヴァラナシにて開催された。2019年度のPBD大会のテーマは、「新たなインドの形成における海外居住インド人の役割」である。

ばれているのか？  
最も有名な海外居住インド人だったマハトマ・ガンジーは1915年1月9日、南アフリカからインドへ帰国した。PBDはガンジーを称えるため、この日に設定された。帰国

後、ガンジーはインドの独立闘争を率いる指導者となった。今年のPBD大会の期間中、海外居住インド人の若者を対象とした「ユースPBD」が開催され、サマン賞の授賞式も行われた。

PBDとは何か？

PBDとは、海外居住インド人コミュニティとインド政府との関与を強化するために二年に一回行われる大会で、海外居住インド人が自らのルーツを再確認する場となっている。大会の期間中、選ばれた海外居住インド人に名誉ある「プラヴァシ・バラティヤ・サマン賞」が授与される。

なぜ1月9日が「プラヴァシ・バラティヤ・ディバス」と呼



「ユースPBD」の開会を宣言するスシュマ・スワラジ外務大臣

Incredible India

## インド観光省、観光インフラの開発を推進

観光客により良い観光体験を提供するため、観光省は観光インフラ開発を推進している。現在、インド全土で中央政府の「スワデシュ・ダルシャン計画」のもと、特定のテーマに沿ったツアープログラムが開発されつつあり、すでに73件のグラムが始動している。



アジアで二番目に大きく、インドで最も長い橋の開通により、北東インドの接続性が向上した

「アダプト・ア・ヘリテージ・プロジェクト」は自然・文化遺産、記念碑やその他がある観光地に、世界的にも最高水準と認められる観光施設を提供することを目的とし、遺産がある観光地における観光関連施設の開発を民間企業や公営企業、個人に委託する計画である。

の「象徴的観光地」が開発推進の対象として特定されている。

インドは、世界旅行ツーリズム評議会の2018年度報告書「急成長している観光国ランキング」で第三位となった

インド全土で新たに17箇所

## 「地域間航空接続性計画 (UDAN)」の実施により、観光地間の接続が向上する

中央政府が立ち上げた「UDAN (地域間航空接続向上) 計画」により、カルナタカ州のハンピ、シッキム州のガントク、ウットラカンド州のピトラガル、ヒマチャル・プラデーシュのシムラなどの観光地へのアクセスが向上した。

インド全土の定期便が運行されていない、もしくは少ない空港へのアクセスの向上を目指す「UDAN計画」により、各地方への接続性が強化

された。計画実施後の20ヶ月間で、以前は定期便がなかった、もしくは少なかった37の空港に向けた120以上の新たな国内線が開通し、110万人近くの旅客がこれらの便を利用した。

ニューヨークタイムズ紙に掲載された「2019年度 訪れるべき観光地52」のリストで、カルナタカ州のハンピは第二位に選ばれた。



## Incredible India

「スワデシュ・ダルシャン計画」のもと、15のテーマ旅行が開発された：

仏教遺跡ツアー

ジャイナ教遺跡ツアー

北東地方ツアー

ヒマラヤ地方ツアー

クリシュナ神ツアー

砂漠ツアー

沿岸部ツアー

その他多数

### 仏教遺跡ツアー列車が誕生：

インド鉄道が開発した、書庫やキッチン、最先端の設備を備えた豪華客車が運行を開始した。

ブッダガヤ、ラージギル (ナーランダ)、ヴァラナシ (サルナート)、ルンビニ、クシナガル、スラヴァスティなどの仏教遺跡観光地を經由し、終着駅はタージマホールである。

仏教遺跡ツアーは、インドでの仏陀の足跡を巡る内容となっている。仏教徒にとって重要な、2500年の歴史を持つ仏陀ゆかりの地が旅程に含まれている。



## インド・スポーツ界の快挙

ニューデリーで開催された第10回A I B A世界女子ボクシング選手権で優勝したメアリー・コム選手は、6つの世界選手権で金メダルを取るという歴史的快挙を成し遂げた。

コム選手は三人の子供を持つ母親であり、このA I B A選手権は、2010年に優勝した世界選手権以来の復帰戦だった。



「Magnificent Mary (偉大なメアリー)」として知られるコム選手は歴史的快挙を成し遂げた



決勝戦勝利後のインド・バドミントン界のエース、シンドゥ選手

インド・バドミントン界のエース、P.V. シンドゥ選手は、中国・広州で開催された今季最終戦となる「BWFワールドツアーファイナルズ2018」で優勝し、インド人初のバドミントン世界チャンピオンになった。

シンドゥ選手は決勝戦で日本の奥原希望選手

に21-19、21-17で勝った。オリンピック、コモンウェルス選手権、アジア選手権、世界選手権では二位だったシンドゥ選手は奥原選手にストレート勝ちし、金メダルが取れないというジンクスを破った。



インドクリケットチームは2018年11月から2019年1月まで四回のテストマッチ、三回のワン・デイ・インターナショナル (ODI)、三回のトゥエンティ20インターナショナル (T20) に参加するため、オーストラリアをツアーした。

インドの試合結果はテストマッチは2-1、ODIは2-1、T20は引き分けとなった。





## インド料理：ビリヤニ

巨大な多様性に満ちた国・インドには、豊かで多様な食の伝統がある。インド料理には、一般には知られていない季節の珍味から、それぞれの地方の料理法にいたるまで、驚くほどの多様性が見られる。

インドで最も愛されている料理の一つが、ビリヤニである。香り高く、豊かな味わいのビリヤニは栄養も満点だ。それぞれの地方には地方色豊かなビリヤニがある。インド人なら誰もが「故郷のビリヤニが一番」と言うだろう。

最も有名なものが、地名に因んだ「ハイデラバード・ビリヤニ」、「ラクナウ・ビリヤニ」、「カルカッタ・ビリヤニ」、ケララ州の「タラセリー（マラパール）・ビリヤニ」である。これらのビリヤニは、インド人なら名前を聞くだけで食べたくなるだろ

### ラクナウ・ビリヤニ：

「アワディ・ビリヤニ」の別名を持つ「ラクナウ・ビリヤニ」は、「ダム・プクト(dum pukht)」と呼ばれる独特な調理法で知られている。スパイスでマリネした羊や鶏などの肉と、サフラン、スターアニ



ス、シナモンなどで風味づけた米を別々に炒め、それらを「ハンディ」と呼ばれる深い土鍋に層にして入れ、味が十

う。

### ハイデラバード・ビリヤニ：

ハイデラバード君主の宮殿の調理人が生み出した「ハイデラバード・ビリヤニ」には、「パッキ」と「カッチ」の二



種類がある。「パッキ・ハイデラバード・ビリヤニ」は、バスマティ米と肉をそれぞれ炒めてから壺に層にして入れ、調理する。「カッチ・ハイデラバード・ビリヤニ」は、生のままマリネした肉

分に浸み込むまで何時間もかような香りの繊細さとは違

けて調理する。柔らかでマイルドな味わいの「ラクナウ・ビリヤニ」が出来上がる。

### タラセリー（マラパール）・ビリヤニ： (ref: the culture trip)

この地方には多民族、多文化の伝統があることから、ビリヤニの種類も豊富である。タラセリー・ビリヤニには伝統的に用いられるバスマティ米でなく、在来種のカイマ米かジーラカサラ米が用いられる。他の材料は、マラパール産のスパイス、羊や鶏などの肉、炒めた玉ねぎ、フェネルシード、炒めたカシューナッツとレーズンなどである。カイマ米は肉とは別に調理し、食卓に出す直前に肉と混ぜ合わせる。マラパール風のビリヤニはスパイシーで、ハイデラバード・ビリヤニの

（鳥か子羊）を、サフラン、玉ねぎ、ドライフルーツで風味をつけた米と層にして壺に入れ、調理する。「パッキ」も「カッチ」も、材料を入れた陶製の壺に小麦粉をこねたもので蓋をし、炭火で時間をかけて調理する。香り高い、

スパイスの効いたビリヤニが出来上がる。



## Incredible India

「ビリヤニ」という言葉は、ペルシャ語の「Biryan」（「前もって炒めておく」と「米」を意味する）に由来する。この美味しい料理の名前の由来には様々な説があるが、多くの歴史研究者は、ペルシャ語がインドにもたらされたと考えている。「ビリヤニ」はインド人の好みに合わせて様々な香りづけや味づけがなされ、国民食となった。



ビリヤニを作りたい方に


にお勧めのレシピ：

<https://www.sanjeevkapoor.com/recipe/Hydrabadi-Biryani-KhaanaKhazana.html>


<https://www.tarladalal.com/recipes-for-Biryani-Veg-Biryani-Collection>

**Embassy of India, Tokyo**  
**Vivekananda Cultural Centre**  
 インド大使館 ヴィヴェーカーナダ文化センター








**Yoga**  
Instructor: Coming soon...




**Tabla**  
Instructor: Shigeru Moriyama




**Odissi**  
Instructor: Kazuko Yasunobu



**Bharatanatyam**  
Instructor: Kyoko Nobu



**Bollywood**  
Instructor: Kyoko Nobu



**Other**  
Instructor: Coming Soon

連絡先 / SNS / 出版物

**Embassy of India**  
Tokyo, Japan



Find us online at:  

<https://www.facebook.com/IndiaInJapan>

<https://twitter.com/IndianEmbTokyo>

Embassy Website: <https://www.indembassy-tokyo.gov.in/>

Ministry of External Affairs, India Website: <https://mea.gov.in/>

インド大使館  
102-0074  
千代田区九段南 2-2-11

お問い合わせはこちらをご参照ください: <https://www.indembassy-tokyo.gov.in/>

電話:  
+81 3 3262-2391 to 97

ファックス:  
+81 3 3234-4866

**MINISTRY OF EXTERNAL AFFAIRS GOES MOBILE**

- Avail services : passport, visa, consular assistance
- Ask your Minister : on the go, anytime, anywhere
- Follow your PM : on his visits abroad
- Find the nearest Indian Mission Post : for emergency consular assistance
- Be informed : about India's Foreign Relations on the move and form your own opinions
- Know more : about how to undertake Kailash Manasarovar Yatra and Haj Pilgrimage
- Download and watch : pictures & documentaries on India
- Play and Personalize : what you need, when you need
- Share and contribute : your views, pics & suggestions

Ministry of External Affairs proudly presents "MEAIndia" – an integrated smart app for mobile and other hand held devices 'MEAIndia' is now available for download on App Store and Google Play Store..



インド大使館のヨガ教室

インド外務省が発行している雑誌「インド展望」(India Perspectives)は日本語を含む16か国語で出版され、170カ国に配布されています。インドの豊かな文化や伝統についての情報を伝えています。入手希望の方はこちらまでメールでお申し込みください:  
 poip@mea.gov.in

**India Perspectives Online Magazine:**

[www.indiaperspectives.in](http://www.indiaperspectives.in)

